

PLACER

Vol.2

The 31th Interim Business Report

第31期 中間事業報告書

2003年4月1日から2003年9月30日まで

To Our Shareholders ...P1

株主の皆様へ

開発力・コンサルティング力・提案力を強め、
パチンコ業界の飛躍をサポートします。

ダイコク電機最前線 **Fade in** ...P3

- 全国縦断ダイコク電機セミナーを実施
- 個人投資家向け会社説明会を開催
- ますます広がる「パチンコNOW」シリーズ
- タッチセンサ付情報提供端末「スクエアロボ」新登場!

● 営業のご報告 ...P5

DK DAIKOKU DENKI

証券コード：6430

開発力・コンサルティング力・提案力を強め、 パチンコ業界の飛躍をサポートします。

●業界は二極化が進んでいます

わが国経済は、設備投資や企業収益に一部改善が見られるものの、個人消費の低迷が続き、依然として厳しい状況が続いています。当社が関わるパチンコ業界においては、店舗の大型化による多店舗展開をはかる大手ホールと撤退や閉店を余儀なくされる中小ホールとの二極化が依然として進んでいます。

パチンコ遊技機は特定の遊技機に市場の人气が集中したことにより、それ以外の遊技機メーカー各社は苦戦を強いられました。一方、パチスロ遊技機は、射幸性の著しく高い爆裂機が大きな問題となり、8月に警察庁より試験申請制度改訂の通達が出され、射幸性は抑制されることとなりました。

このような情勢のもと、当社の情報システム事業部門では、機能強化を進めておりますホールコンピューティングシステム「C」が、市場の高い評価を受けて納入が進んだことにより、前年同期より微増収となりました。

一方、制御システム事業部門では、パチンコ遊技機の流通が昨年末から特定機種に大きく偏ってきたことや、遊技機の許認可数が大幅に増大したことから、各遊技機メーカーとも1機種あたりの販売台数が伸び悩む結果となりました。以上の市場環境の中で当事業部門は、昨年のような大ヒット機種を出せなかったこともあり、表示ユニット、制御ユニットともに減少し、減収となりました。

以上により、当中間会計期間の業績は、売上高159億8770万円（前年同期比13.6%減）、営業利益15億1百万円（同36.3%減）、経常利益18億4百万円（同27.8%減）、中間純利益10億61百万円（同25.1%減）となりました。

●私たちの課題と目標達成に向けた取り組み

<情報システム事業>

ホールコンピューティングシステム「C」の拡販

ブランド力を高めるため、セミナー開催を積極的に実施しました。また、ホールコンピューティングシステム「C」の遊技台管理・顧客サービス機能を強化し、販売を伸ばしました。下期は、更に周辺機器も含めて機能強化を行い「C」の普及をはかります。

価格競争力の強化

「C」の機能強化とコンサルタント営業・提案型営業による高付加価値化が進んでいます。今後も当社の特色として継続し、開発・製造・販売の総合力で競争力強化を推し進めます。

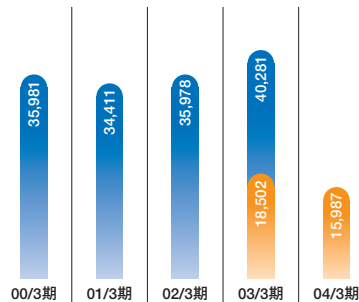
工事・メンテナンス体制の強化

工事発注の流れを整備し、精度の高いコスト管理がはかれるようにしました。下期に向けては研修所を稼働させ、技術力強化による顧客満足度の向上をはかります。

Key Financial Data 主要財務データ

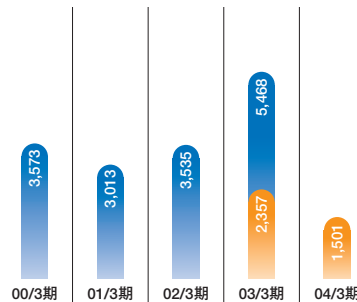
売上高

●通期 ●中間期 (単位: 百万円)



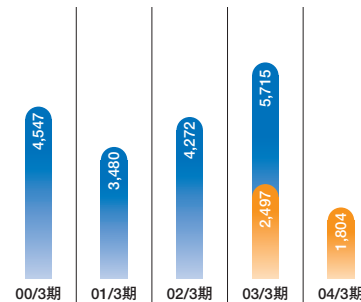
営業利益

●通期 ●中間期 (単位: 百万円)



経常利益

●通期 ●中間期 (単位: 百万円)



<制御システム事業>

収益性の向上

販売機種数が大幅に増加する中で、1機種あたりの開発効率・販売効率の低下が顕著になっています。既存取引遊技機メーカーに対しては、開発受託数量のアップをはかるとともに、遊技機販売に対するプロモーション活動を含めた側面支援の強化をはかります。取引のない遊技機メーカーに対しては、引き続き積極的なアプローチを行います。設計から製造にいたるすべての段階で収益性の向上をはかります。

開発体制の強化

遊技機の(財)保安電子通信技術協会(保通協)における型式試験適合数増加に伴って、製品の良さもさることながら、機種開発数も企業競争力のポイントとなっています。今年4月、東京へ開発部門の一部を移し、開発部門の強化をはかりました。徐々に効果が現れつつあることから、開発効率の追求と他社にないコンセプトをもった製品開発の強化に取り組みます。

マーケットシェアの追求

遊技機の販売台数が横ばいで推移する中、特定の機種に人気が集まる傾向があります。人気機種となる要素の研究をし、それを具現化することが、市場占有率の向上につながると考えています。戦略的なマーケット分析を確立し、遊技機メーカーに提案することで受注につなげ、シェアの拡大を目指します。

●ファン、ホール、メーカー3者の利益と満足のために

パチンコ業界においては、警察庁より「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」等の改正要綱が提示され、高い射幸性を示すパチスロ遊技機が規制される反面、パチンコ遊技機は規制が緩和され、機種バリエーションが豊富に



代表取締役社長 小山 晴久

なることが期待され、今後のパチンコ業界に大きな影響を及ぼすことと思われます。

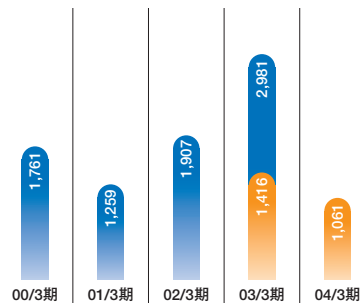
そのように予断を許さない状況を踏まえ、平成16年3月期の業績は、期初での見通しと変わらぬ売上高380億円(前期比5.7%減)、経常利益44億15百万円(同22.7%減)、当期純利益23億57百万円(同20.9%減)を見込んでいます。

当社の使命は、パチンコ業界をバックアップし、優れた情報インフラを提案することにあります。今後も、パチンコホール、遊技機メーカーとパチンコファンをつなぎ、3者が利益と満足を得られるビジネスの仕組みづくりを構築してまいります。

株主の皆様には、引き続きご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

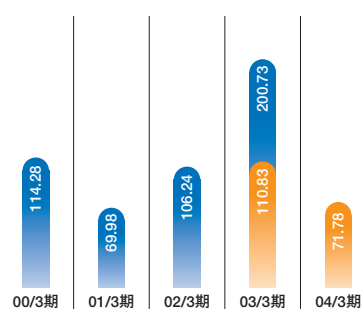
中間(当期)純利益

●通期 ●中間期 (単位:百万円)



一株当たり中間(当期)純利益

●通期 ●中間期 (単位:円)



通期の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

全国縦断ダイコク電機セミナーを実施

当社は、従来より単に物を売るだけではないコンサルティングセールスを差別化戦略としており、その一環として毎年テーマを替えて全国でセミナーを開催しています。今期は6月の広島会場を皮切りに、全国17会場で「業績向上のためのパチスロデータ管理手法」と題し、ダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」やホールコンピューティングシステム「C」の活用に結びつけた新しい提案を行っています。

最近のパチンコ遊技機の仕様に関する内規変更や“パチスロ爆裂機”における検定取り消し事件など、業界の変化を受け、従来までのパチスロ機種種の遊技性や射幸性に頼っただけの営業では限界が見え始め、業績を上げるための理論をいち早く構築したいというホール側の危機感の現れから、17会場で約1,900名ものかつてない多くの方に受講していただき、直接当社製品販売にもつながる成果がでています。今後も当社にしかできない旬で実践的なテーマによって業界に新しい提案を行ってまいります。



●会場別参加人数

開催日	会場	参加人数
6月24日	広島	64名
25日	鳥根	53名
7月 1日	名古屋	132名
8日	さいたま	118名
9日	宇都宮	53名
11日	高崎	54名
15日	京都	87名
16日	松本	102名
29日	大分	71名
30日	福岡	134名
8月29日	大阪	303名
9月 5日	高松	81名
8日	岡山	80名
16日	東京	233名
19日	札幌	135名
22日	静岡	72名
26日	仙台	145名
		計 1,917名

個人投資家向け会社説明会を開催

IR活動の一環として個人投資家向けの会社説明会を4月9日(水)東京会場、8月26日(火)名古屋会場で開催しました。また、名古屋で開催された野村證券株式会社主催「ノムラ資産管理フェア2003」へ9月7日(日)・8日(月)の両日「IRブース」を出展しました。各会場とも多くの個人投資家の皆様にご参加いただき、アンケートにもご協力をいただきました。

当社は名古屋地区での知名度はありますが、全国的に見るとまだまだ低く、社名もさることながら、業務内容を正しく伝える必要性を痛感しています。今後も引き続き当社を正しく理解していただき、多くの株主の皆様当社への投資をしていただくため積極的にIR活動を展開してまいります。



個人投資家向け会社説明会(東京会場)



個人投資家向け会社説明会(名古屋会場)

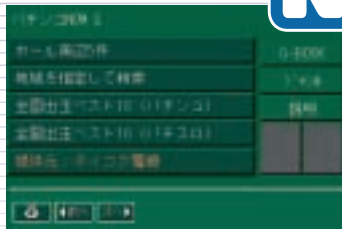


ノムラ資産管理フェア2003

ますます広がる「パチンコNOW」シリーズ

NTTドコモ、KDDI、ボーダフォンの公式サイトに登録され、いつでもどこでも、全国の加盟パチンコホールの大当たりデータにアクセスすることができる「パチンコNOW」。

この「パチンコNOW」は自動車業界の最先端技術「テレマティクスサービス」にも展開しています。トヨタ自動車車載端末『G-BOOK』サービスに「パチンコNOW G」が8月1日よりスタートしました。平成14年10月にスタートした日産自動車『CARWINGS』の「パチンコNOW N」に続き、トヨタのG-BOOKサービスに参入したことによって、携帯電話をはじめ、PC、自動車とより多くの環境で情報提供ができることになりました。行きたいパチンコホールまでナビゲーションしてくれるだけでなく、そのパチンコホールの出玉情報や全国出玉情報などを併せて情報提供することでパチンコファンの利便性を高めています。



タッチセンサ付情報提供端末「スクエアロボ」新登場!

50インチの迫力ある大画面をタッチして、パチンコ遊技機の各種データやパチンコホールからのインフォメーションを提供する「スクエアロボ」を発売しました。

1画面に遊技機16台分の出玉推移グラフを表示する「グラフ一覧」や、9日分のグラフと大当たり履歴を表示する「指定台データ」など業界初の新機能が満載です。

ファンの目線から見た、簡単操作でデータを“感じる”ことのできる製品です。



「グラフ一覧」
グラフを比べながら台が選べます。



「指定台データ」
先週の同じ曜日までグラフで見ることができます。



ロボパートナー IL-90C dash

スタイリッシュなフォルムと魅力あふれるデータ表示で人気のデータ表示呼出ランプです。表示部がよりクリアになり、大当り履歴も10回分表示できますので1日の動きが一段とわかりやすくなっています。



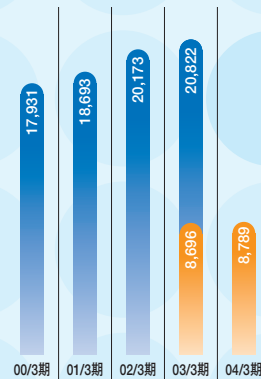
ホールコンピューティングシステム「C」

分析サーバ MS-55

従来ない柔軟性と拡張性を秘めた分析用サーバです。ホール独自のデータ出力項目の作成が可能です。

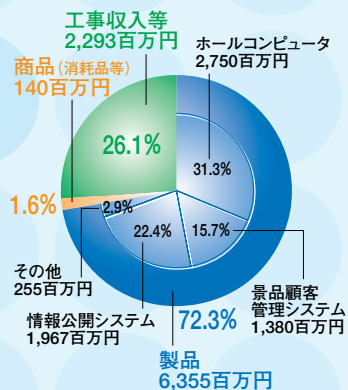
情報システム事業売上高

● 通期 ● 中間期 (単位: 百万円)



情報システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



売上比率
55.0%

● 情報システム事業

当中間会計期間におけるパチンコ業界は、積極的に店舗の大型化を伴った多店舗展開をはかる大手ホールと、撤退や閉店を余儀なくされる中小ホールとの二極化が、依然として進んでいます。

勝ち組企業による店舗の大型化傾向により、設備投資は前年同期に比べて多少活発となりましたが、価格競争は一層厳しくなりました。

こうした状況下、当事業部門では、パチンコホールの経営者・管理者を対象に、8月に警察庁により通達が出された試験申請制度改定に伴い今後影響を受けるパチスロ遊技機を有効に活用するための「DKパチスロセミナー」を全国17会場で開催するなど、当社顧客ホールへのコンサルティング営業を強化することにより、ホールコンピューティングシステム「C」の販売促進に努力いたしました。

その結果、開示区分別売上高は、ホールコンピュータ27億50百万円(前年同期比12.0%増)、情報公開システムでは、19億67百万円(同2.7%増)となり、当部門の売上高は、87億89百万円(同1.1%増)となりました。

通期におきましては、ほぼ期初の計画通りに推移していますが、警察庁より10月10日に提示された「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」等の改正要綱により、今後パチンコ遊技機の種別(第1種セブン機、第2種羽根根ものなど)廃止などによって、遊技機のバリエーションが豊富になり、パチンコホールでは機種選択や遊技機管理がますます難しくなることが予想されます。

当事業部門では、この規則改正を緻密な情報管理ができるホールコンピューティングシステム「C」が評価されるビジネスチャンスと捉えています。ホールコンピューティングシステム「C」の遊技機管理方法など機能を更に強化し、ダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」の必要性を訴え、ファン集客のための呼出ランプやプレジャービジョンなどの情報公開システムの販売促進を行ってまいります。

売上比率
45.0%

●制御システム事業

当中間会計期間におけるパチンコ遊技機市場は、特定の遊技機に市場の人気が集中したため、それ以外の遊技機メーカー各社は苦戦を強いられました。

一方、パチスロ遊技機は、射幸性の著しく高い爆裂機が大きな問題となり、8月に警察庁により試験申請制度改訂の通達が出され、今後射幸性は抑制されることとなりました。

このような市場環境の中、当事業部門は、特定の人気遊技機に押され、1機種あたりの販売台数が伸び悩みました。昨年のような大ヒット機種を出せなかったこともあり、出荷数量は、表示ユニットで7機種、9.5万台（前年同期比9.8%減）、制御ユニットで6機種、4.7万台（同55.7%減）と前年同期を下回った反面、スイッチ等オートメーションパーツの商品販売が前年同期を上回り（同7.6%増）、当部門の売上高は、71億97百万円（同26.6%減）となりました。

通期におきましては、10月10日に「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」等の改正要綱が警察庁より提示され、高い射幸性を示すパチスロ遊技機が規制される反面、パチンコ遊技機は、第1種セブン機、第2種羽根ものなどの種別の撤廃により、ゲーム性の高いバリエーション豊富な遊技機が期待され、従来のキャラクター版権に頼った液晶表示やランプ・音による演出重視から、メカを含めたゲームの仕様やアイデアの差別化が、今後のパチンコ機種開発に大きな影響を及ぼすと予想されます。

また、パチスロ遊技機では、射幸性が高く問題となった3機種の爆裂機が検定取り消しとなり、今後撤去されていくことを受け、一部客離れとなる可能性も出てきました。

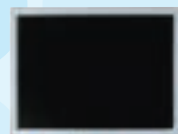
当事業部門では、4月1日に開設いたしました表参道デザインスタジオでの機種開発が軌道に乗ってきており、今後もダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」のもつ絶対優位性を活かし、さらなる提案力や開発力および製品力の強化を目指していきます。



制御ユニット
基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



商品

パチンコ遊技機に使用されるスイッチ、ソレノイド等のオートメーションパーツの仕入販売をしております。

●当社ユニット搭載の主なパチンコ遊技機（2003年4月～9月発売）



CRアッポー

©2003 All Japan Pro-Wrestling
株式会社高尾
（2003年5月発売）



CRコブラ

©BUICHI TERASAWA/A-GIRL RIGHTS
株式会社ニューギン
（2003年7月発売）

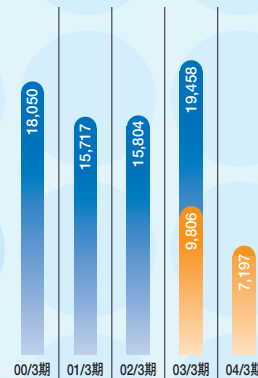


CRシシオウ

株式会社サンセイアールアンドディ
（2003年9月発売）

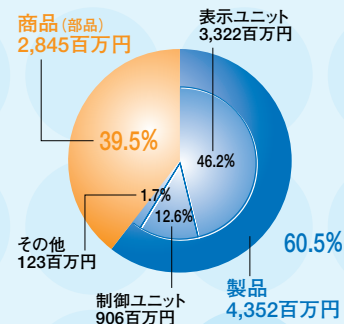
制御システム事業売上高

●通期 ●中間期（単位：百万円）



制御システム事業売上高構成比

（百万円未満は切捨て）



●資産・負債・資本の状況

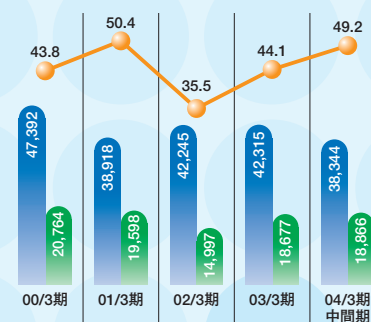
当中間会計期間末においては、前期末と比較し仕入債務及び未払法人税等の支払いが多くなったことにより現金及び預金が減少した結果、総資産は前期末と比較し39億71百万円減少の383億44百万円、負債は前期末と比較し41億59百万円減少の194億78百万円、株主資本は前期末と比較し微増の188億66百万円となりました。

●中間貸借対照表（要旨）

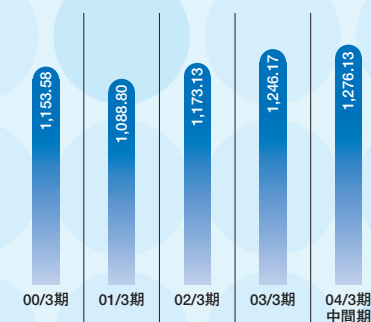
科 目	前中間期 2002年9月30日現在	当中間期 2003年9月30日現在	前期 2003年3月31日現在
資産の部			
流動資産	22,228	21,886	25,249
固定資産	17,284	16,458	17,066
有形固定資産	8,358	7,963	8,162
無形固定資産	1,074	1,276	1,364
投資その他の資産	7,851	7,218	7,539
資産合計	39,513	38,344	42,315
負債の部			
流動負債	18,383	13,912	17,473
固定負債	5,235	5,565	6,164
負債合計	23,618	19,478	23,637
資本の部			
資本金	120	674	674
資本剰余金	14	680	680
利益剰余金	15,758	17,508	17,322
その他有価証券評価差額金	2	3	1
資本合計	15,894	18,866	18,677
負債及び資本合計	39,513	38,344	42,315

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

●総資産 ●株主資本 (単位：百万円)
●株主資本比率 (単位：%)



●一株当たり株主資本 (単位：円)



● 中間損益計算書(要旨)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	2002年4月 1日から 2002年9月30日まで	2003年4月 1日から 2003年9月30日まで	2002年4月 1日から 2003年3月31日まで
売上高	18,502	15,987	40,281
売上原価	11,847	10,364	25,601
売上総利益	6,655	5,622	14,679
販売費及び一般管理費	4,297	4,121	9,211
営業利益	2,357	1,501	5,468
営業外収益	335	411	564
営業外費用	195	108	317
経常利益	2,497	1,804	5,715
特別利益	—	0	—
特別損失	75	59	263
税引前中間(当期)純利益	2,421	1,745	5,451
法人税、住民税及び事業税	1,070	660	2,470
法人税等調整額	△ 64	24	0
中間(当期)純利益	1,416	1,061	2,981
前期繰越利益	1,270	1,383	1,270
中間(当期)未処分利益	2,687	2,444	4,251

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

● 中間キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	2002年4月 1日から 2002年9月30日まで	2003年4月 1日から 2003年9月30日まで	2002年4月 1日から 2003年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	547	△ 1,144	7,096
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 515	△ 96	△ 1,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,168	△ 903	△ 2,741
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 37	6	11
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,174	△ 2,138	3,219
現金及び現金同等物の期首残高	7,721	10,940	7,721
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	6,546	8,801	10,940

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

● 損益の状況

当中間会計期間において、前中間会計期間のようなヒット機種にめぐまれなかったこともあり、売上高は前中間会計期間に比較し25億15百万円減少の159億87百万円となり、営業利益は8億56百万円減少の15億1百万円、経常利益は6億93百万円減少の18億4百万円、中間純利益は3億55百万円減少の10億61百万円となりました。

● キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前期末に比較し21億38百万円減少し、88億1百万円となりました。

当中間会計期間における営業活動の結果使用した資金は、11億44百万円であり、前中間会計期間に比較し16億91百万円増加しました。これは前中間会計期間に比較し売上債権の減少額が8億47百万円と大きくなったにもかかわらず、税引前中間純利益が6億76百万円減少、たな卸資産が8億50百万円増加、及び仕入債務が5億19百万円減少したことが主な要因であります。

当中間会計期間における投資活動の結果使用した資金は、96百万円であり、前中間会計期間に比較し4億19百万円減少しました。これは前中間会計期間に比較し、定期預金の預入による支出が1億円増加したにもかかわらず、固定資産の取得による支出が3億12百万円減少、及び保険積立金の解約による収入が1億96百万円増加したことが主な要因であります。

当中間会計期間における財務活動の結果使用した資金は、9億3百万円であり、前中間会計期間に比較し2億64百万円減少しました。これは配当金の支払額が2億35百万円増加しましたが、借入金の返済額が5億円少なかったことによりです。

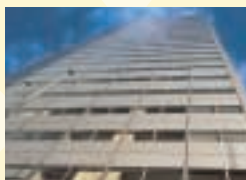
Corporate Profile

● ● ● 会社概要 (2003年9月30日現在) ● ● ●

- **商号** ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.
- **創業** 1964年12月
- **設立** 1973年 7月
- **資本金** 6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)
- **本社** 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
- **従業員数** 正社員数414名 準社員数79名
- **事業内容** パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ・回胴式(パチスロ)遊技機用ユニットの開発・製造・販売
- **役員**

代表取締役社長	小山 晴久
代表取締役副社長	栢森 雅勝
代表取締役専務	栢森 秀行
常務取締役	伊東 幹夫
常務取締役	江川 正行
常務取締役	栢森 健
取締役	香川 芳夫
取締役	伊藤 茂年
取締役	泉家 邦雄
取締役	平原 正義
取締役	岩根 節雄
取締役	堀田 昌郎
取締役	國保 徳丸
常勤監査役	山崎 健二郎
監査役	田中 正雄
監査役	敷田 稔
監査役	村橋 泰志

(注) 1. 取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。



本社



本部事業所

● 事業所一覧

- **本社** 〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
TEL(052)581-7111(代表)
- **本部事業所** 〒480-0395 春日井市坂下町1丁目875
TEL(0568)88-7111
- **高蔵寺事業所** 〒487-0014 春日井市気噴町一丁目2番地
TEL(0568)51-7111
- **春日井事業所** 〒480-0304 春日井市神屋町1番26
TEL(0568)88-7771

● 拠点一覧

- **北日本支店** 〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目2番3号
鹿島広業ビル
- **札幌営業所** 〒001-0011 札幌市北区北十一条西四丁目1番地44
ベルエアプラザ
- **盛岡出張所** 〒020-0135 盛岡市大新町6番35号
アイビル大新町
- **関東支店** 〒110-0005 東京都台東区上野七丁目2番10号
上野駅前第一生命ビル
- **茨城営業所** 〒305-0032 つくば市竹園二丁目2番地4
第2・ISSEビル
- **北関東営業所** 〒338-0832 さいたま市桜区西堀八丁目21番35号
カタヤマ本社ビル
- **新潟出張所** 〒950-0953 新潟市大島209番地
- **中部支店** 〒480-0304 春日井市神屋町1番26
- **金沢出張所** 〒920-0027 金沢市駅西新町3丁目9番26号
- **西日本支店** 〒532-0003 大阪市淀川区宮原四丁目1番14号
住友生命大阪北ビル
- **岡山営業所** 〒700-0927 岡山市西古松一丁目1番26号
オム第Ⅱビル
- **九州支店** 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号
ヤマエ博多駅南ビル
- **広島営業所** 〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目45番11号
- **表参道デザイン外** 〒107-0061 東京都港区北青山三丁目5番17号
はる木ビル



Stock Information

● ● ● 株 式 情 報 (2003年9月30日現在) ● ● ●

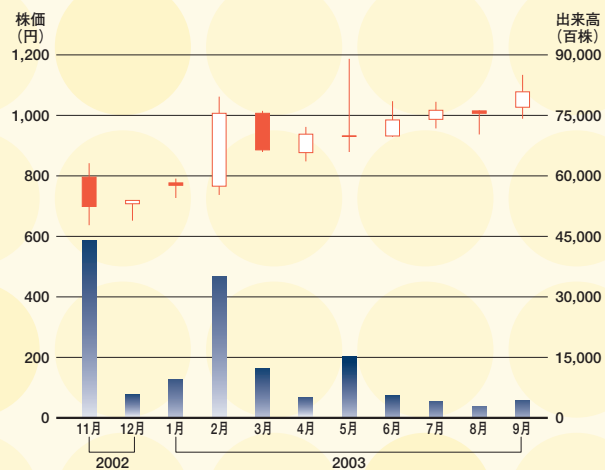
● 株式状況

会社が発行する株式の総数…………… 66,747,000株
 発行済株式総数…………… 14,783,900株
 株主数…………… 3,008名

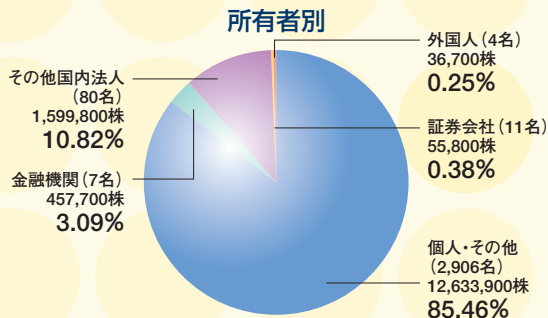
● 大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
栢森 雅勝	2,139,450	14.48
栢森 秀行	2,126,400	14.39
栢森 健	2,124,900	14.38
栢森 隆	1,197,500	8.10
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.08
栢森 新治	737,150	4.99
栢森 美智子	626,000	4.24
ダイコク電機従業員持株会	569,000	3.85
竹田 和平	200,000	1.35
株式会社みずほ銀行	150,000	1.02

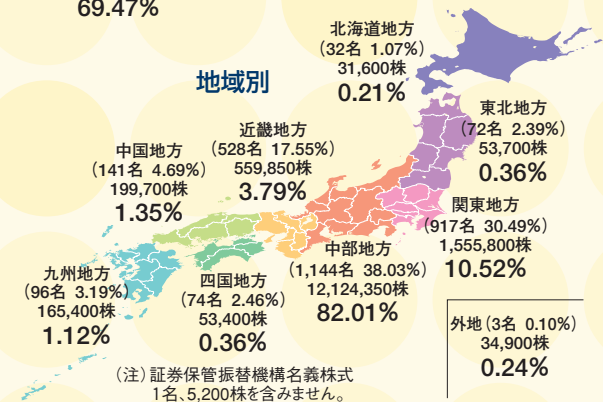
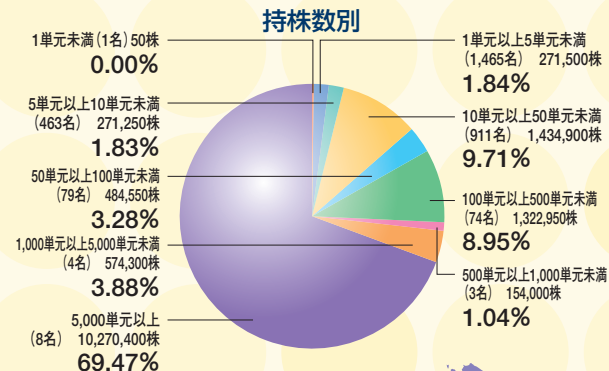
● 株価及び出来高の推移



● 株式分布状況



(注) その他国内法人には、証券保管振替機構名義株式5,200株を含みます。



(注) 証券保管振替機構名義株式 1名、5,200株を含みません。

株主メモ

●決算期	3月31日
●定時株主総会	6月下旬
●配当金受領株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（中間配当をする場合）
●基準日	3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
●名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
●同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 TEL. (052)262-1520
●同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
●公告掲載新聞	日本経済新聞
●貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html

〈お知らせ〉

住所変更、单元未済株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

DK **ダイコク電機株式会社**

〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階
TEL (052)581-7111 (代表)
ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>